

大学生の環境保全に対する意識調査

徳島県保健環境センター

大垣 光治・重清 和久・田淵 均・谷 公人

Investigation on the Colledge Students's Opinion of a Environment Preservation

Mitsuharu OGAKI, Kazuhisa SHIGEKIYO, Hitoshi TABUCHI and Kimito TANI

Tokushima Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences

要 旨

徳島県では、平成16年3月には、県民、事業者、行政などあらゆる人々の行動の指針となる「環境首都とくしま憲章」¹⁾を策定した。この憲章では「環境首都とくしま」を実現するため「5つの合言葉」と、そのための「具体的な取り組み(トライ21)」を示している。今回、徳島県保健環境センターへ研修や見学に訪れた大学生に対して、「具体的な取り組み(トライ21)」の取り組み状況のアンケートを行った。その中でも、「地球温暖化にストップ」をかけるための5つの行動、「ごみゼロの社会」を目指す5つの行動、「環境にやさしい暮らし」を呼びかける4つの行動についてアンケート結果を取りまとめ、大学生の環境意識について検討した。

Key words: 環境首都とくしま憲章, 5つの合い言葉, トライ21, 大学生, 環境

I はじめに

徳島県では、本県の豊かな自然環境を生かした、世界に誇れる「環境首都とくしま」を実現するために、様々な取り組みを行っている²⁾。平成16年3月には、県民、事業者、行政などあらゆる人々の行動の指針となる「環境首都とくしま憲章」を策定した。この憲章は、すべての県民に参加を呼びかける「環境首都とくしま」への合言葉と「環境首都とくしま」への取り組み(トライ21)という分かりやすいスタイルを取っている。

今回、徳島県保健環境センターへ研修や見学に訪れた大学

生に対して、環境首都とくしま憲章に掲げる21の取り組み(トライ21)についてのアンケートを行ったので、その結果について報告する。

II 研究方法

1. 調査対象

平成19年5月から7月に、徳島県保健環境センターへ来所した徳島県内3大学(徳島大学、徳島文理大学、四国大学)の薬学部あるいは栄養学科の学生140名(男性58名、女性82名)である。

2. 調査方法

「環境首都とくしまへの取り組み(トライ21)」に掲げる21種の取り組みについて、「いつもやっている」「時々、やっている」「今はやっていないが、これからはやりたい」「今はする気はない」「わからない」の5段階によるアンケート調査を行った。

III 調査結果とその考察

21種の取り組みのうち「地球温暖化にストップ」のための5つの取り組み、「ごみゼロ社会」を目指す4つの取り組み、「地球にやさしい暮らし」のための4つの取り組みについてのアンケート結果について述べる。

「環境首都とくしま」への合言葉

- ① 無駄なエネルギーを一切使わず「地球温暖化にストップ」をかけましょう。
- ② 物を大切にする知恵で「ごみゼロの社会」を目指しましょう。
- ③ 身近な生物と「共存する楽しさ」を取り戻しましょう。
- ④ 私たちの誇りである「清らかな水と豊かな緑」を守りましょう。
- ⑤ 県民みんなが「環境にやさしい暮らし」を心がけましょう。

1. 「地球温暖化にストップ」のための取り組み

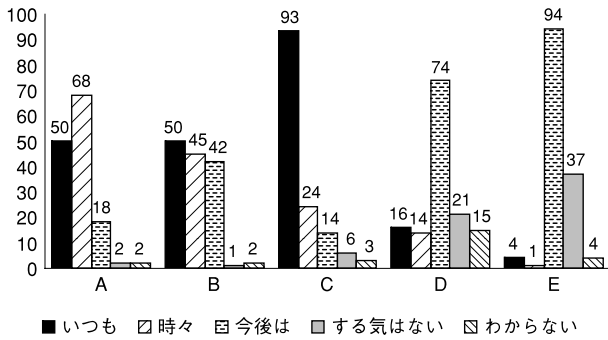


図1 「地球温暖化にストップ」するための5つの取り組み
 A：電気製品のスイッチを切るなど節電に。
 B：冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く。
 C：徒歩や公共交通機関の利用を。
 D：アイドリングストップなどエコドライブを。
 E：太陽熱温水器など自然エネルギーの利用を。

徳島県では、平成18年3月に「とくしま地球環境ビジョン（行動計画編）」³⁾を策定し様々な温室効果ガス削減のための呼びかけを行っている。

今回、アンケートを行ったトライ21の内の温暖化対策に関する5つの取り組みは、A 節電やB 冷暖房のエコ運転など家庭での省エネ促進、C 公共交通機関の利用やD エコドライブなどエコカーライフの促進、E 太陽光など自然エネルギーの利用の3種類に分けられる。

いつも取り組んでいる人が最も多かったのは、公共交通機関の利用（140人中93人）であった。多くの学生はマイカーを所有していないため、徒歩や自転車、公共交通機関を利用している。これらの人たちの多くは、車を所有した時にはエコドライブに心がけるつもり（140人中の74人）であることが分かる。

逆に、取り組む気持ちがない人が最も多かったのは、自然エネルギーの利用（140人中37人）である。

2. 「ごみゼロの社会」を目指す行動

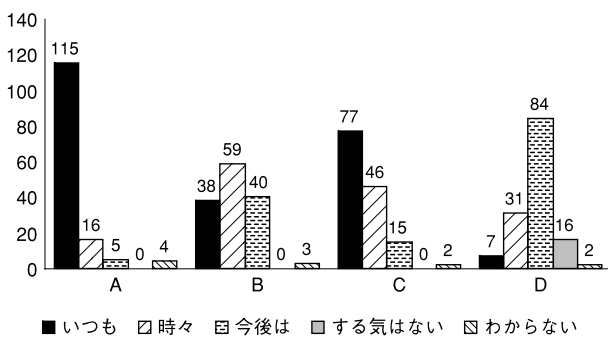


図2 「ごみゼロの社会」を目指す4つの取り組み
 A：空き缶など、ごみのポイ捨てをやめましょう。
 B：必要な物を大切に使いましょう。
 C：ごみはきちんと分別をしましょう。
 D：買い物袋を持参してレジ袋を断りましょう。

「ごみゼロの社会」を実現するためには、廃棄物の発生抑制、部品等の再使用、使用済み製品を原材料として再利用することが重要である。アクション21が呼びかけている「ごみゼロの社会」を目指す5つの取り組みは、A ポイ捨てをしない、D 買い物袋を持参するなど廃棄物の発生抑制のための取り組みと、B 必要な物を大切に使う、C 分別を行って資源ごみとすることなど再使用のための取り組みである。取り組んでいる人が最も多かったのはごみのポイ捨てをやめること（140人中115人）であり、続いてごみの分別（140人中77人）であった。ごみのポイ捨ては論外であるが、ごみの分別を完全に行っていた人が、わずか50%だったのは驚きである。最も少なかったのは、買い物袋を持参し、レジ袋を断ること（140人中7人）であった。

3. 「環境にやさしい暮らし」のための4つの行動

「環境にやさしい暮らし」を呼びかける4つの取り組みは、温暖化対策やごみゼロ社会の実現のように、具体的な呼びかけでないため、もう一つ浸透していない。そのため、回答していない人が140人中36人と非常に多かった。

エコマークやグリーンマークなど環境にやさしい製品であることを表示する様々なマークが作られている。しかし多くの方は物を購入する時、これらのマークはあまり参考にしていないと考えられる。

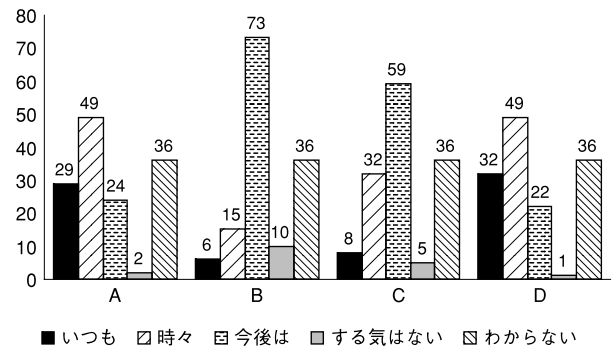


図3 「地球にやさしい暮らし」のための4つの取り組み
 A：「もったいない」精神を大切にしましょう。
 B：環境活動やボランティア活動に参加しましょう。
 C：エコマークなど環境にやさしい製品を使いましょう。
 D：地場の食材や旬の野菜を食べるようにしましょう。

IV さいごに

徳島県では、沢山のパンフレットを使って、様々な啓発を一生懸命行っているが、その浸透については問題が多い。その点、アンケートに回答する場合には、その設問を読んで一生懸命考えるので、パンフレットを読んでその中身について考えてもらうための、非常に良い手段と考えている。

】2 徳島ヴォルティスのホームスタジアムである鳴門競技場では、ジュースやビールを飲む時に使う「使い捨ての紙コップ

プ」を減らすために、エコタンブラーというプラスチック容器を使ってもらい運動を進めている。徳島県では、以前（平成17年度）このエコタンブラーについてのアンケートを行ったが、このアンケートの実施後、アンケートに回答する際の学習効果により、エコタンブラーを使うお客さんが大幅に増えるという経験をした⁴⁾。

徳島県では、様々な機会を捉えて「環境首都とくしま憲章」の普及に取り組んでいる。本アンケートが、普及の一助になれば幸いである。

（本論文は第53回四国公衆衛生学会で発表しました。）

文 献

- 1) 徳島県県民環境部環境局環境企画課環境首都推進室：環境首都とくしま憲章，平成16年3月
- 2) 徳島県県民環境部環境局環境首都課：徳島県環境白書 平成19（2007）年度，平成20年3月
- 3) 徳島県県民環境部環境局環境首都推進室：とくしま地球環境ビジョン（行動計画編），平成18年3月